

## 平成27年度第3回野菜需給・価格情報委員会消費分科会の意見概要

### 1 日時

平成28年3月1日（火）13:30～15:30

### 2 場所

独立行政法人農畜産業振興機構 南館1階会議室

### 3 概要

事務局から「最近の消費・輸入動向等について」（資料1）を説明の後、春野菜の需要・消費動向の見通しについて、意見交換。その概要を小林座長が取りまとめ、各委員の了承を得た上で、3月8日開催の平成27年度第3回野菜需給・価格情報委員会に報告することとなった。平成28年産春野菜の需要・消費動向の見通しに関する各委員からの意見は以下のとおり。

#### 1 今季（11月～2月）における野菜の販売・消費の動向

##### ① 天候や価格の変動による消費動向の特徴について

- 暖冬傾向のため、きのこや鍋物商材が苦戦し、その反動でサラダ商材が好調であったほか、カレーやシチュー用食材のじゃがいもやたまねぎが好調であった。
- 1月下旬の九州地方を襲った降雪・大寒波により、そら豆、スナップエンドウ等の豆類に大きな被害が出たため、2月の豆類の入荷量が大きく減少した。同様に、春ばれいしょの産地にも大きな被害が出たため価格が高騰した。

##### ② カット野菜、冷凍野菜及び原料に野菜を使用した冷凍調理食品や惣菜食品などの動向について

- カット野菜は、個食化、高齢化及び簡便化志向の中で、売上げが前年比で120%と勢いが止まらない。特に、昨年11月から12月の相場が安いときでも販売数量は堅調であった。素材からカット野菜に移行した人が、そのままカット野菜を購入し続けている傾向が見られる。
- 顧客に対する調査により、即食・簡便食・個食のニーズがあることが分かった。このため、更にカット野菜や蒸し野菜を重視するとともに、冷凍野菜のコーナーも増やす予定である。
- 調理セットが高齢者にも好調なので、商品アイテムを増やしていくことを考えている。

##### ③ 輸入野菜の動向について

- 前進出荷の影響で、ブロッコリーが今年に入り、国産価格が高騰したため、輸入品の販売が好調であった。
- 冬場の加工・業務用レタスは、台湾に頼らざるを得ないのが現状。
- 国産のキヌサヤは、数年前に比べ1袋当りの量目を減らしている。一方、たくさん使いたい顧客向けに、量目を多くした輸入品を国産品と同じ価格で販売している。

##### ④ 野菜の消費拡大への取組について

- 消費者の多様なニーズに対応するため、これまでのようなレギュラー商品だけの販売ではなく、味や品質などにこだわりを持った商品を販売していく必要がある。
- 現在、にんじんやたまねぎ、ばれいしょのバラ売りをしているが、消費者が自ら選べて、必要な量を購入したいニーズがあることから、今後は、なすやピーマンなどバラ売り品目数を増やしていくことを考えている。

- 20～30歳代の子育て世代を支援するために、にんじん、かぼちゃなどの国産食材を使用した離乳食や、アプリを使ったレシピの提案を行っている。また、60歳代には、昔からの和食の煮物の提案を行っている。
- 荒川区などにおいて、小さな子供がいる30代から40代の夫妻を対象に、野菜の効能や調理方法などの講演を行い、子供に野菜をもっと食べてもらうための取組みとして、「街なか商店塾」を実施している。
- 最近では、ブロッコリー、カリフラワー、新たまねぎなどの調理方法を教えて野菜の消費拡大の取組みを行っている。
- 足立区や東京都と連携して、一昨年から生活習慣病を予防するために、「野菜から食べる」「野菜を3食しっかり食べる」、「野菜をよく噛んで食べる」を内容とする「ベジタベライフ」という取組みを推進している。

## 2 春野菜主要6品目（春キャベツ、春だいこん、たまねぎ、春夏にんじん、春はくさい、春レタス）の今後（4～6月）の見通し

### 《春キャベツ》

- 4月は、愛知県産の春系の前進出荷により、切り上げが早くなると予想される。
- 冬キャベツは、残量があるものの全体的には減少傾向である。

### 《春だいこん》

- 主力産地である、神奈川県産や千葉県産は平年並みで推移すると見込んでいる。

### 《たまねぎ》

- 北海道産は順調であったが、今後、佐賀県産や兵庫県産が出回ることとなるが、1月下旬の寒波や病害等により、品質の低下も懸念され高値傾向で推移すると考えられる。

### 《春夏にんじん》

- 各産地ともに、順調な生育により例年並みの生産が期待される。

### 《春はくさい》

- 昨年の高値の影響で作付面積が増加したことにより、今年は潤沢に出回ることが予想される。

### 《春レタス》

- 今後、兵庫県産・茨城県産から長野県産・群馬県産へと移行していくが、今年の4月は暖冬の影響で冬作と春作の端境期ができて価格の乱高下が懸念される。

## ① 気象状況などを踏まえた、今後の野菜の調達（仕入戦略など）について

- 産地とお互いの情報を共有することが重要で、そのことにより品質、出荷時期や収穫量などの状況を把握することができ、どのようなチラシを作成するかなど、その後の販売に繋がっていきやすい。
- 降雪により鹿児島県産の豆類が大幅なダメージを受けたこともあり、2番手産地の開発が必要である。産地開発を行い、販売の強化を図っていくことが必要である。

## ② 販売戦略（販売方法など）について

- サラダの販売戦略として、主力のレタスやトマトなどに併せて、ハーブやイタリアン野菜を添えることを考えている。
- 洋風商材やベビーリーフ、マッシュルームの販売が好調であった。これまでの準主力商品からサラダのメイン商材として、販売面積を増やすことを考えている。
- 地域の伝統商品のアピールによるプラスアルファを目指して伝統野菜の応援をしていきたい。
- カット野菜は今後も販売数が伸びていくと考えられる中、販売価格はアップするが、1人用のカット野菜の取扱いを増やしていく。

### 3 その他

#### ① 春先以降の消費を左右する要因として注目しているものについて

- 株価が高騰したときには、消費が活発になっていたので、今後の株価の動向によっては、野菜の消費量の減退も考えられる。
- 暖冬による前進出荷の影響で、今年の端境期は前年よりも大きくなると考えている。このため、今後の気象変動等を注視する必要がある。

#### ② 主要6品目以外の野菜で、注目している野菜について

- 地場野菜、近郊野菜及び直売所で販売されている野菜など、生産者の顔が見える農産物の販売を増やしていく考えである。
- 茹でてドレッシングをかけるだけで、手軽に食べられるプチベールは好評を得た。
- 山菜の一つである「雪うるい」について、食べ方の提案を行い、地域野菜を広めていきたい。
- 生食用でもドレッシング用でも使える食材としての大葉に注目している。
- スーパーなどのバイキング販売が好評で、ミニトマトが足りなくなってきた。また、かぼちゃや、沖縄県津堅島特産の人参（島にんじんとは異なる）に注目している。
- 居酒屋や外食では、ハーブ系ミントや赤水菜などの注文が増えてきている。
- パクチーは、専門店があるなどコンスタントな販売商品として考えられる。
- 年末のテレビで放映されて好評であった、ブロッコリースーパースプラウトに注目している。

#### ③ ドライバー不足、ガソリン価格の変動及びコールドチェーン対応など野菜の物流をとりまく環境変化の影響と対応について

- スtockポイントとしての物流センターを建設して産地から直接納入する割合を高め、物流費の削減やトラックドライバー不足への対応を行っていく考えである。
- ドライバー不足の問題として、首都圏に運ばれてきた品物を各家庭に届けるためのドライバーも不足している。この他にも、ピッキングセンターの労働者も不足している。この対応として、高齢者や、女性の活用も考えている。また、将来のことを考え若手の育成も考えている。
- ドライバー不足は依然あるものの、原油価格の値下がりもあり、表立った運賃の値上げ要請は行われていないようである。

#### ④ 消費行動における震災や原発事故の影響について

- 東北の農産物も販売しているが、消費者の中には購入を控える者もみられる。このため西日本の農産物も販売しているが、特にアピールは行わず消費者の選択に任せている。
- 学校や保育園にも届けているが、福島県産を敬遠する声は聞かれなくなった。
- 福島県産のアスパラは美味しいと評判で、今後は販売の拡大を考えている。

#### ⑤ その他

- キャベツ等の貯蔵技術の実証試験を進めている。ある一定の条件の下では夏場では30日、冬場では40日は保存が可能で、レタスであれば夏場では20日、冬場では30日は可能であるとの試験結果を得ることができ、貯蔵臭もほとんどなかった。